



「百二十一年目の第一歩」

秋田県立図書館 館長 高橋 貢



明治三十二年十一月に開館した本館は、昨年度で創立一二〇周年を迎えた。多くの記念事業を実施してきたが、三月は新型コロナウイルスの影響で、残念ながら臨時休館。現在は国や県の指導に従い、「密閉、密集、密接」に留意しつつ再開している。細心最大のサービスを工夫したい。

昨年度を振り返った時、私が最も印象に残っているのは、「秋田県図書館大会」での、筑波大学名誉教授葉袋秀樹氏による基調講演である。「新しい時代の公共図書館を展望する」と題したこの記念講演は、まさに公共図書館研究の第一人者にふさわしい充実した内容であり、先生の熱い思いがストレートに心に響いてきた御講演であった。

秋田県立図書館は、「打って出る図書館」（来館者を待っているだけではなく、積極的に市町村や学校等へ出て活動する）をモットーに掲げているが、理念らしきものも幾つか設けている。一点目は、県の直営機関として当然のことではあるが、全県民に奉仕しなければならないという。二点目は、教育委員会所管の機関として、生涯学習のみならず、学校教育にも全面的な支援を行う必要があるということ。三点目は、いわゆる「図書館業界」において、全国の県立図書館と比較しても遜色のないレベルを保つということ。この三点は、必須であると考えている。

現在、新たなサービスや取組を発信している方々はたくさんいらっしゃるが、公立図書館や日本図書館協会の詳細な歴史的分析和図書館法などの研究を通して、図書館員の公務員としての使命感まで論じることのできる方は、葉袋先生以外はそれほど多くないような気がする。今後とも機会があれば、また先生の御指導を仰ぎたい。

本館の活動は、概ね次の四分野に分けて柱立てをしている。

一つ目は、県民への直接サービス。一日平均千数百名の利用者へのサービス。読書活動、研究活動への支援。「調べ学習」「ビジネス支

援」「健康情報」「地方創生」などの各コーナーを設置し、県民の課題解決を支援。講演会や講座の開催。また、大学附属病院や金融広報委員会等との連携セミナー、美術館や博物館などの他機関との連携展示等々。二つ目は、直接来館できない方々への間接サービス。市町村図書館や学校図書館を通して、県立図書館のサービスを全県民に届けたい。今年度の学校や市町村等への貸出数は、五万冊に届きそう。市町村図書館や学校図書館職員の人材育成のための研修会は、年間三十回ほど開催。市町村図書館や学校を訪問しての指導助言は、県立図書館としての本務である。三つ目は、郷土資料の網羅的収集保存とデジタル化。四つ目は、「あきた文学資料館」の運営。分館として十三年前に開館。本館ゆかりの作家や作品を中心に、約八万点ほどの資料を収集保存、逐次公開中。

今後、ますます予算や人員が削減されることも予想されるが、図書館の将来展望としては、「ローカル・オブティマム」（地域ごとの最適状態、葉袋先生も言及）の発想に基づき、県の課題と県民のニーズを見極め、地域の最適な施策を探索し、事業の精選と焦点化を進めていくことが大切になってくる。また、昨年の法改正により、図書館の所管を教育委員会から首長部局に移すというような話が出てくる県や市町村もあるだろう。

図書館は、単に本を貸すところではなく、県民や市民の生活向上やビジネスの活性化、そして街の賑わいの創出や地域の課題解決などにも役立つ機関である、と多くの図書館人が努力を重ねて二十年、やっと認知され始めてきた結果、図書館は首長部局に移管した方がもっと役立つ、という潮流が生まれてきたことは何とも皮肉と言えない。図書館が、教育委員会所管であることは、そうするべき必然性があるからなのであって、我々としてはやはり教育委員会所管にこだわりたい。そのためにも、学校教育を全面的にバックアップする必要があるし、県内の高等学校や特別支援学校だけでなく、幼稚園や小・中学校にもセット本の貸出支援を拡大したい。学力の全国トップレベルをアピールしている本県にとっては、まさにローカル・オブティマムにもなっている。

秋田県立図書館としては、前述の三つの理念の下、常に自らの存在意義を自問しつつ、百二十一年目の第一歩を踏み出したい。

『サービス向上のための評価アンケート』結果

県立図書館では、今後の図書館サービスの向上に活かすため、利用者の皆様へ『サービス向上のための評価アンケート』を行いました。その結果をまとめたものの一部を紹介します。

■実施期間 令和元年9月5日（木）～12日（木） 7日間 ※9月11日（水）は休館日

■実施方法 閲覧室入口でアンケート用紙を配布し回収。 ■回答者数 423人

※前回は平成29年度に実施

◆調査項目と回答結果◆

1 回答者についての質問

■性別

男性が52.8%、女性が47.2%でした。

■年齢

年代については、中高年、高齢者の利用が顕著であり、40代～70代で73.7%を占めました。

■住所

秋田市内の方が94.5%、その他5.5%でした。県外（東京都、京都府）からの来館者も2名いました。

■利用目的 ※複数回答可

53.7%の方が自分の趣味や楽しみでの利用でした。また、個人や仕事上の調査研究での利用も24.6%あり、自習の場としてではなく図書館本来の利用がされている利用者が多いことが分かりました。

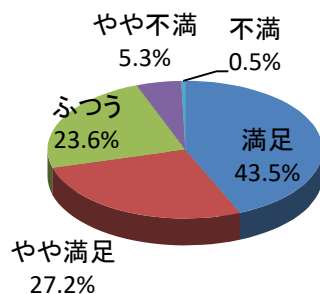
■利用頻度

月に数度の来館が36.0%と最も多く、週に複数回利用の方は16.5%で前回より8.9%減少しました。

2 図書館サービスについての質問

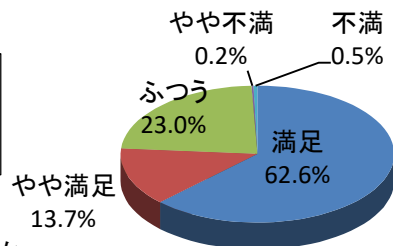
①本館が提供している資料（図書、雑誌等）について、満足していますか。

資料が充実しているとの評価を多くの方からいただきましたが前回より若干満足度が低下しています。いただいたご意見は今後の資料選定の参考にさせていただきます。



②本館の職員の対応について、満足していますか。

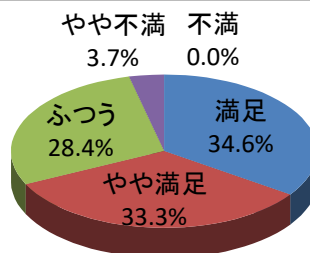
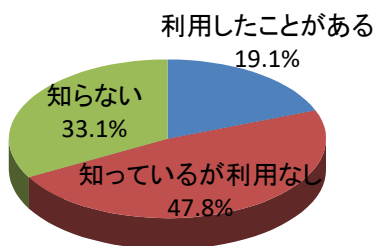
多くの方から、親切・丁寧・誠実という高い評価をいただきましたが、一方で厳しいコメントもありました。今後もサービスの改善に取り組んでまいります。



③生活課題解決サービスについて、知っていますか。利用したことがありますか。

④利用した人は生活課題解決サービスについて、満足していますか。

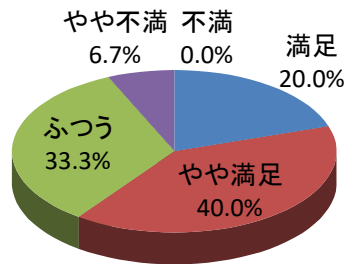
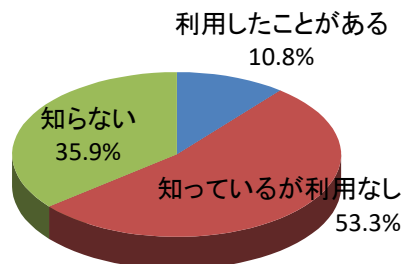
約7割の方が知っていますが、利用実績が前回より減少しています。利用された方からの満足度は、前回よりやや上昇しました。今後も引き続き周知を図ってまいります。



⑤ビジネス支援サービスについて、知っていますか。利用したことがありますか。

⑥利用した人は、ビジネス支援サービスについて、満足していますか。

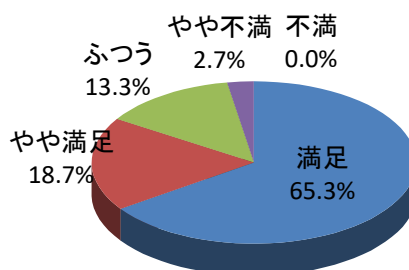
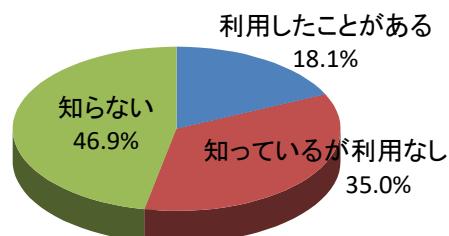
約18年のサービス実績がありますが、まだ知らない方が約3分の1もあり、今後も引き続き周知を図り、利用数の増加を目指します。一方利用された方からは、高い評価を受けています。



⑦レファレンス・サービスについて、知っていますか。利用したことがありますか。

⑧利用した人は、レファレンス・サービスについて、満足していますか。

前回より認知度が低下しました。レファレンス事例を利用者に提供する等、周知や利用の向上を今後も図ります。また、満足度は前回とほぼ変化がないため、引き続き職員のレファレンススキルの向上を目指します。

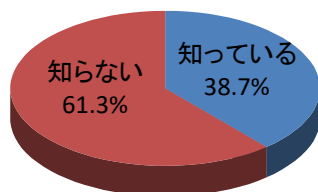


⑨県立図書館が、市町村図書館等を支援する役割があることを知っていますか。

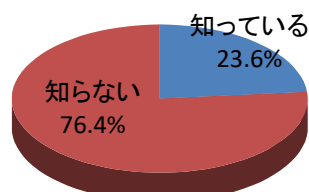
⑩県立図書館が、小中学校や高等学校、特別支援学校へ貸し出しを行っていることを知っていますか。

市町村図書館等への支援業務は、カウンターサービスや郷土資料の収集と合わせ、本館の大きな役割の一つです。子どもの読書活動の推進の一環としてここ10年ほど力を入れている学校貸し出しと合わせ、今後も県民の皆様へ理解していただけるよう取り組んでまいります。

⑨市町村立図書館支援について

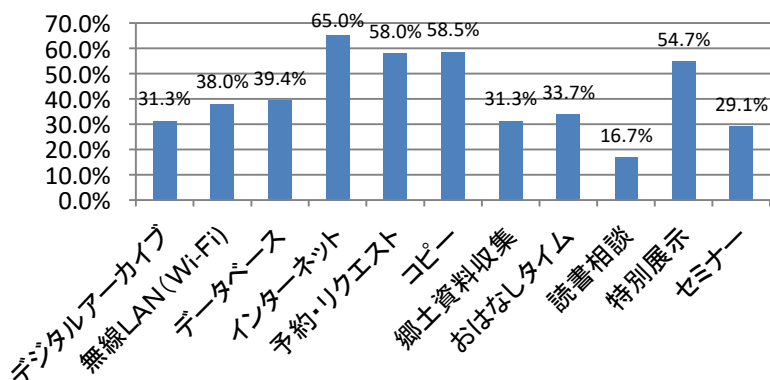


⑩学校支援について



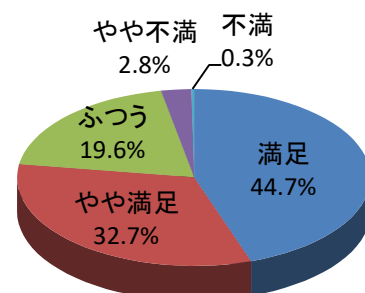
⑪県立図書館では様々なサービスを行っていますが、それらについて知っていますか。 ※複数回答可

各サービスの認知度を全職員で共有し、今後もPRに務め利用率の向上を図ります。



⑫全体として本館のサービスについて満足していますか。

昨年度初めての質問でしたが、満足・やや満足を含め77.4%の評価をいただきました。今後も満足度の向上に全職員で取り組んでまいります。



秋田県立図書館創立120周年記念事業(後期)

県立図書館は昨年の11月1日に創立120周年を迎えました。これを記念して行った様々な取組を、前号に続いて紹介します。

令和元年度(第43回)秋田県図書館大会

令和元年11月6日(水)、秋田市文化会館を会場として、令和元年度(第43回)秋田県図書館大会を開催しました。大会テーマを「新しい時代の公共図書館を展望する」とし、基調講演と事例発表等を行いました。

はじめに、筑波大学名誉教授のみない葉袋秀樹氏を講師に迎え、基調講演を行いました。講演の前半では、戦後の公共図書館の発展過程を、図書館法の制定や、図書館関係者のこれまでの取組を通して振り返りました。後半では、「地域社会との結び付き」「情報のデジタル化への対応」といったキーワードから、新しい時代の公共図書館の在り方を考えていく必要があること、図書館運営に「ローカル・オプティマム(地域ごとの最適状態)」の視点を加えていくべきこと等の提言がなされました。

事例発表では、鹿角市立図書館(発表題「『つなぐ』～0歳から100歳まで楽しく憩う図書館～」)、秋田市立土崎図書館(発表題「地域に愛される図書館を目指して」)、横手市立図書館(発表題「愛され・役立ち・成長し合える横手市立図書館の方向性について」)、県立図書館(発表題「読む楽しさを、知る喜びを、全ての生徒へ～県立図書館による学校支援～」)が、自館の取組を発表しました。



葉袋氏による基調講演



事例発表の後に、講評・質疑応答を実施

当日は、市町村図書館・公民館図書室・学校図書館の職員、市町村教育委員会の職員、図書館協議会委員、図書館ボランティア等、160人が参加しました。図書館の使命とは何かという原点を見つめ直し、これからの図書館の役割を共に考える、充実した機会となりました。

また、大会終了後、秋田県の図書館120周年を祝う会を開催し、図書館関係者66人が出席して、交流を深めました。

手書きPOP作り研修講座



手書きPOP作成の様子と完成した作品

9月の市町村図書館・公民館図書室職員研修会と、1月の学校図書館職員等研修会で、手書きPOP作り研修講座を行いました。

トーハン・コンサルティングから講師を迎え、前半は文面や字体、色使いなどPOP作りのポイントについてお話いただきました。

後半は、持参したオススメ本のPOPを作りました。会場には沢山のPOP見本のほか、装飾に使える色紙やシール、マスキングテープ、消しゴムはんこなどが用意され、参加者は試行錯誤しながら熱心に作成していました。更に講師が、出来上がったPOPにアレンジを加え、本と一緒に小道具などと飾り付けると、参加者からは感嘆の声があがりました。

参加者の中にはこれまで自己流でPOPを書いていたという方も多く、大変参考になった、すぐ実践できる、他の参加者が書いたPOPも見ることができて楽しかった、などと大盛況でした。

Event ～イベント・催し物のお知らせ～

■特別展示「明治の広告デザイン
クセになる引札の魅力」
～県立博物館との連携による展示～

【期間】 4月4日(土)～5月26日(火)

【時間】 午前9時30分から午後5時まで

【会場】 県立図書館 2階特別展示室

【内容】 明治時代に、商店・問屋等が宣伝のために作って配布した引札(ひきふだ)を展示します。引札は、地域の商店や商品の情報を伝える、貴重な歴史資料です。また、鮮やかな色合いや大胆な図柄から、美術品としての価値も高い印刷物です。秋田県内の商家に伝わった引札の魅力をお楽しみください。